

平成27年度第1回調布市男女共同参画推進センター運営委員会

議事録（要旨）

1 日時

平成27年6月19日（木）午後6時30分～8時30分

2 場所

市民プラザあくろす研修室3

3 出席者（五十音順，敬称略）9人

市古委員，熊崎委員，小宮委員，小森委員，菅野委員，田村委員，内藤委員，仁藤委員

オブザーバー：山岸係長（総合防災安全課 防災係），田口香子（株式会社地域計画連合）

事務局：内田，塚原，高橋

4 内容

(1) 開会

委員の変更・・・仁藤委員（人事異動），二宮委員（辞退）

オブザーバーの変更・・・高木市民活動支援センター長（人事異動）

(2) 前年度の振り返り

（事務局から）

- ・災害が起きたとき，すべての人は「被災者」とまとめられがちであるが，性別，年齢，障害の有無，国籍や言葉の違い，家族構成や就労状況によって，必要とされる支援は異なる。
- ・災害時には「最も支援を必要とする人々」「最も弱い立場にある人々」に支援が届きにくい。
- ・男女共同参画推進センターだからこそ，「平均的な支援で全員平等」ではなく，「最も支援を必要とする人々」により厚く，的確な支援を届ける役割を担う必要がある。
- ・実際に災害が起きた時には，まず，現場で支援を始め，復興段階まで長期的に関わるのは，行政職員だけではなく，地域の皆さんや支援団体の皆さんの力が不可欠である。
- ・誰もが多様に配慮した支援や助け合いができるよう，平常時から準備することが大切ではないか。
- ・あらゆる場面で「男女共同参画の視点」「多様性」に配慮した備えが実行に移せるよう，引き続きご意見を賜りたい。

（委員長から）

前回1月27日の成果を中心に，提言に向けて，今日の議論をどのように進めていったらいいか，少し説明をさせていただきたいと思います。

昨年度の第3回については，生活が元に戻るまで，仮に自宅が一部損壊とか半壊といった十分修理ができるような被害の程度であっても，ライフライン，電気とかガスが止まる，スーパーで物が買えなくなるなど生活に支障が生じる。それから，幼稚園や保育園，高齢者のデイサ

ービスといった生活サービスが停止した時には、かなりの家族への負担といったものが増してくるといった話が出されたと思います。火災被害が生じて家を失った場合は、寝泊りする場所としての避難所、味の素スタジアムのようなところで仮設住宅といったステージもありますし、自宅をどう再建するのかという大きな問題もあるというような話も出されたと思います。

多くの委員の方は間接直接的に、東日本なり阪神淡路を経験されたということもあり、直後の対応だけでなく、3日、1週間、1か月後という大きなスパンで意見を出しているいろいろ気づきもあったということが第3回の成果だったと思います。首都直下地震では、国とか東京都も被害想定を出しているように、1週間、1ヶ月ぐらいは生活が元に戻らないということを受けて、第3回はいろいろ意見が出されたかと思います。

それを受けまして、先ほど事務局からも一番支援が必要なところを把握してセンターとして役割を果たしていきたい。役割を果たすための様々な仕組み、準備をしていきたいという話がありましたが、第4回では更にケースを絞って、ケアすべき世帯というのを絞り込んで議論をしていきました。

3日後や1か月後というのは、このような不安や課題が出てくるのではないかという話があったと思います。この表1こそが1月27日のワークショップの一番大きな成果だというふうに思っております。

(3) 提言の方向性について

(仁藤委員から)

先年の議論がワークショップを中心にして行われてきたということで、今お話がありましたように、活発な意見が出易いやり方を市古先生の方で展開していただいたのかなと思いますが、だからこそ、たくさん考えることがあって、センターは何をやったらいいのか、何もできないんじゃないかというような、ちょっと行き詰まり感もあったというふうに耳にしております。

議事録を読み込ませていただき、事前に市古先生とお話させていただきましたところ、むしろ皆さんのワークショップの中で良い視点、良い材料をたくさんいただいていると思いました。

私は防災の会議にメンバーとして参加していますが、この男女共同参画推進センターに来て、女性の私が思いもつかないような男女に関わる視点というのが本当に必要だというような、本当に現場で事件は起こると感じる2か月を過ごしています。私がずっと防災会議に出ていたにも関わらず、女性にも関わらず、わかってなかったという、その視点のところを今皆さんが考えてくださっているのかなと思うし、ここがそういうときに必要な場所になる準備が必要だとすごく感じております。

いつも馴染みがあって、始終いっぱい人が行き来している中で、「あ、私も辛いときがあるかも」って利用できるセンターにしないといけないと思うんです。日常、センターはどういうことをしていたら、そういう非常時にみんなが、「あ、そうだ、調布にはあのセンターがあるじゃないか」と思ってもらえるのかというふうに思ってもらえるのか。ここの議論の中で見つけていきたいなと思っております。最後になりますけれども、提言をいただきたいと思っております。その提言は委員長から市長にお渡しいただき、その案は、庁議という部長クラスの会議があり、そこで報告いたします。その提言の中には、避難所で男女の視点を盛り込んだパンフレット作りや、非常時にこのセンターが役立つためには、このセンターが日頃から馴染みのあるセンターでいられるのかというようなものを盛り込んだ提言をいただきたいと思っております。

(4) テーブルトーク～防災視点で改めてセンターについて考える

A班, B班に分かれて, 各事象について予測できること, それに対応してできると思われること, 平常時の取組について話し合った。

A班の話し合いのまとめ

	発災～3日 で発生する事象	予測できること	どう対応すべきか	マニュアルで対応できないか	平常時の取組	提案
1	<ul style="list-style-type: none"> ・あくろすは駅から近いので, 帰宅困難者や近隣の市民からの要望が多く寄せられる。 ・DV被害者が安全な居場所を求めてくる可能性がある。 ・治安の悪化, 特に女性への性暴力が心配 ・トイレの問題 ・通院・旅行客ほか住民以外の居場所に困った人が, 情報を求めてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在, あくろすは避難所に指定されていないが, DV被害者等居場所に困っている人のための一時滞在スペースが必要 ・混乱している状況でも, 市が保有する情報をできる限り正確に適宜提供する ・女性への性暴力の相談があった場合の対応 ・たれでもトイレ(水洗トイレ)が通常通り使えれば)の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・あくろすは24時間使えるスペースとなれば, 市として非常時にスペースをどのように使えるか, 現在のBCPとあわせて検討する。その結果を内部のマニュアルとしてスタッフに周知することができるとはならないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターは市の災害対策についての最新情報を常に把握しておく必要がある ・女性への性暴力の相談があった場合の対応を平常時からスタッフが情報共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の視点で考えた避難所運営や日頃の備えに関するリーフレットの作成 ・男女共同参画推進センターの役割を明確にし, 平常時から周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の視点を入れる, 女性の意見を反映させるなどの文言だけでなく, 具体的な数値目標を明記(避難所のリーダの3割は女性を配置するなど)することが必要
2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの夜泣きなどがあると周りに気遣い, 女性や子どもが安心して過ごせない。 ・トイレ周辺の安全が確保されるか ・授乳や着替えなどのプライベートスペースが十分に確保されない。 ・平等な支援を前提とした避難所では, 困っていることを個々に言い出せない 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所を回って声をかける＝女性特有のニーズの把握 ・希望する女性のための女性専用スペースの確保 ・災害対策本部に女性のニーズを伝える。 ・女性の茶話を開いて, 話しやすい雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの聞き取りは, 女性や子どもだけなどを集めて行うということを避難所マニュアルに明記する必要があるのではないか。 ・避難所リーダとして女性を配置する等を記載することが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの聞き取りは, 女性や子どもだけなどを集めて行うということを避難所マニュアルに明記する必要があるのではないか。 ・避難所リーダとして女性を配置する等を記載することが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営について, 女性の視点から配慮しておきたい指針をリーフレットにまとめ, 全戸配布する。関係団体・職員にも周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の視点から配られる, 女性の意見を反映させるなどの文言だけでなく, 具体的な数値目標を明記(避難所のリーダの3割は女性を配置するなど)することが必要
3	<ul style="list-style-type: none"> ・育児・介護に関わる悩み・困りごとを相談できる場所が欲しい ・女性用品がどこにあるのか等の情報の不足 ・在宅避難は個々に家庭状況, 被災状況も異なるのでニーズ把握が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性による相談窓口の設置(巡回, 来所), 御用聞き ・正しい情報, 求められている情報を的確に提供 			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と職員の顔と顔がつながる関係づくりに努める。 ・市民活動支援センターとの連携強化 ・相談窓口の周知(各家庭での問題に寄り添う) 	

	発災3日～1ヶ月で発生する事象	予測できること	どう対応すべきか	マニュアルで対応できないか	平常時の取組	提案
4	家事負担の女性への偏りは正	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時の混乱の中では、性別役割分担が強化されてしまう状況は避けられない。 ・育児、介護負担が平常時から女性に偏っていることから、非常時にはより集中しがちとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性も女性も協力してやると楽になることを考える＝公平な作業分担、協力体制 ・落ち着いたら、井戸端トークのような気軽に話せる場を作る ・男性を「ほめる」アプローチ 		<ul style="list-style-type: none"> ・男性の料理、家事教室などの啓発活動が必要 	
5	市民による支え合い		<ul style="list-style-type: none"> ・センターと一緒に活動してくられる人材と活動 ・地域で何らかの活動をしたり見守りをする人を育てる 		<ul style="list-style-type: none"> ・物の貸し借りができる、顔と顔が見える関係づくりにつながるイベントを開催 ・センターの活動に協力してくれる人材とつながる ・女性リーダーを育成 ・あらゆる意思決定の場に女性の参画を働きかける ・地域で参加しやすい避難訓練を実施 	
6	女性・子どもへの暴力防止	<ul style="list-style-type: none"> ・DV被害で身を隠している人は、配偶者と遭遇してしまいかもしれないので、避難所へ行くことができないのではないかと。 ・アルコール依存症などの家族がいる場合も考えられる。 ・街灯が壊れて暗い状況に多くの女性が不安を感じる ・DV被害者が安全な居場所を求めてくる可能性がある。 ・治安の悪化、特に若い女性への性暴力が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時から、地域リーダーが性犯罪やDVについての正確な知識や情報を理解しておくことが、災害後の暴力防止に役立つ。 ・非常時のDV被害者の一時保護施設の確保を考える ・被災直後は難しいが、できるだけ迅速な相談事業の再開を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所マニュアルに、暴力未然防止のためにトイレの周辺などを明るくすることや、夜間の見回りなどの対策を明記 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座を充実させ、暴力の被害者にも加害者にもならないための予防講座を積極的に開催 ・相談事業を迅速に再開するための対策を検討 ・非常時の混乱に紛れて、性暴力が起こりうることがあることなどに注意事項をカードにまとめて配布するなどさまざまな手段で事前に広く知らせることが重要 	

日班の話し合いのまとめ

	発災後3日～1ヶ月で発生する事象	予測できること	どう対応すべきか	マニュアルで対応できないか	平常時の取組	
4	<ul style="list-style-type: none"> 家事負担の女性への偏り 	<ul style="list-style-type: none"> 災害が発生して間もない時期なので、やれる人がやっているだろう。 女性の家事負担を取り上げるなら、男性に偏りがちな重労働も取り上げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害が起きてから偏りを修正しようとしても無理 日常での働きかけが必要 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • 担当が性別で偏らないようにすること、避難所運営に必ず女性を入れることなどをマニュアルに入れておく必要はある • ないよりはあつた方がいいが、現場では、いちいちマニュアルを見てもらえない • 日常的に個人の意識の中に浸透させておかないといけない </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 講座、講演会、広報などの啓発活動が必要 	<ul style="list-style-type: none"> • 男女共同参画推進センターという固い名前が周知を阻んでいる可能性がある
5	<ul style="list-style-type: none"> 市民による支え合い 	<ul style="list-style-type: none"> • 近所、知り合いなどでの助け合い • 市民グループの活動は難しい 	<ul style="list-style-type: none"> • 市民活動支援センターで活動しているグループは、趣味のためのグループだから災害時の活動を期待できない。 • 普段から、災害時に積極的に活動できそうなグループの育成が必要 		<ul style="list-style-type: none"> • 女性リーダーを育成する取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> • 親しみやすい名前、愛称を持つとよいのではないか
6	<ul style="list-style-type: none"> 女性・子どもへの暴力防止 	<ul style="list-style-type: none"> • さまざまな不安を抱えて、暴力が発生しやすい状況になっている可能性がある。 • 男女共同参画推進センターとして直接的なことはできない • 避難所の掲示板などに、相談できる施設があることを貼りだすことは可能 	<ul style="list-style-type: none"> • 避難所などの掲示物を通して、男女共同参画推進センターでは困りごとの相談できることを周知する • お役立ちマップなどを用意して、センターで対応できないことは、できることを紹介できるようにする 		<ul style="list-style-type: none"> • 男女共同参画推進センターの存在を知ってもらうための活動が必要 • 平常時に男女共同参画推進センターの活動が知られていないと、災害時に頼れる存在にはなれない 	

(5) 全体討論

オブザーバー：B班は、主に4～6の問題について中心的に話をしました。避難生活中に男性の意識を変えるとか、市民の活動によって支えあうことについて、災害が起きてから取り組むというのは難しいという話になりました。むしろ、特に意識的な啓発活動につながるものは、普段からどれだけやっておけるかというのがとても大事であり、例えば地域を歩いて防災マップを作り、支援の必要な人がいるというのを見つけるということも必要ですし、災害時に動ける人材を普段から育成していこうという意見が出ました。それは、普段から地域で何らかの活動をしたり見守りをしたりする人を育てることであり、災害に備えて日頃からの活動とか、繋がりとか、人材をどういうふうに作っていくかということが、全体に共通して重要になるという結論でした。もう一つ出たのは、センターの周知の話でした。センターのスペースの活用として、例えば何となく息苦しさを抱えた育児ママが集まれるような場所になったらいいというアイデアが出て、そのためにはセンターが普段から知られておく必要がある。センターはどうして知られないのかんだろうという声も上がりました。男女共同参画という漢字8文字熟語だと、なかなか自分事として捉えられないので、センターをPRするより、何か困ってませんか、ここにちょっと遊びに来ませんかというような、ここで提供できるものとか、スペースとか、そういったケアを、その人が自分事として、これは私のために言ってくれてることというメッセージで捉えられるような周知をしていったらいいのではないかという結論になりました。以上です。

委員：私は当日よりも日常、平常時の活動が大事なのかなと思いました。避難所を開設したときに、どこに相談したらいいかということが起こると思うので、特に女性問題に関しては男女共同参画センターのスタッフに聞けばいいんだよということを、職員だけでなく、広く周知していく啓蒙活動をしていくというのがいいかなと、最終的には思いました。

委員：提言で、先ほどリーフレットの作成の話が出ましたが、男女共同参画ってどんなことなのかということを含め、災害時はこんなふうになりますよということを、わかりやすいキャッチフレーズを作って、それを市民が日常的に目にするところに掲示するとか、調布駅前に横断幕を出すところまで発展できるといいなど。市報に載るのもよいと思いますが、市報を読まない方もいるので、日頃目につくような形で掲示できたらすごくいいと思っています。以上です。

委員：お2人に言っていただいたことを違うことを申し上げたいと思いますけど、ここが周知されてないということで、活動としてこちらから打って出ていくような日頃の活動に取り組んでいくことが、PRに繋がっていくのではないかと思うので、そういう活動もこれから積極的に広げていかれるといいと思いました。

オブザーバー：11月に私が出させていただいたときに、同じような発言を申し上げたんですが、やはり災害が起こってからとなるとなかなか難しいというところで、いくらマニュアルだとか、市の計画だとか、行政担当者が、そういった災害時の女性への配慮と謳っていても、いざ災害になったら、避難所を運営するのは、市の職員だけでなく、当事者である避難者の皆さん、地域の皆さんに運営していただくということになります。大きな課題としては、阪神大震災や、東日本大震災で女性が肩身が狭い思いをされたという体験を、市民全体で共有して、市側から啓発していく必要があると思います。これまで市報にも掲載していますが、避

難所で情報掲示板を必ず出しますので、そこでセンターの活動を広報できるのではないかと
という提案をいただきました。非常に素晴らしいご意見だと思いました。防災担当も、皆さ
んからいただいた提言を出前講座の一部に、避難生活の注意事項に入れることも可能と思っ
ています。いろいろ御意見をいただく中の提言を楽しみにお待ちしておりますので、今年
度もどうぞよろしく願いいたします。

委員：私も、男性陣の発言とほぼ同じですけれども、やはり災害が起こってからでは間に合わない
だろうし、何もできないだろう。例えば、意識だけでも、少しでもよいので啓発活動をやる
のと、もう一つは、そういうグループ作りをとりあえずやる。そのグループが実際にうまく
機能するかわからないが、男女共同参画意識は高まるだろう。そのような災害ボランティア
というか、男女共同参画のグループづくりをして、日頃から意識を高めていくということが
大事だと思えます。

副委員長：私は近くのマンションに住んでおります。そこで年に1回防災訓練をやります。それは
簡単に消火活動をやるだけですが、今年から防災グッズの備品の点検をしました。倉庫があ
りますが、誰も何が入っているか知らなかったのです。みんなで何が入っているかを点検し、
その内容をドアに貼り付けたんです。誰でもわかるように。それから、先日、東京都の防災
の講義を受けました。労働組合に加盟している企業で「どうぞ急がないでここへ寄ってくだ
さい」というスペースを作っておきましょうという申し合わせをしました。私も日頃マンシ
ョンや地域で、男女共同参画推進センターがあるということを宣伝したいと思えます。以上
です。

委員：今日、良かったと思うことがいくつかありました。一つは、家事負担のことについて、男性
が女性の家事負担に気づくというところで、専ら重いものを運ぶ役を担うであろう男性側ば
かりに負担の公平性を唱えるのはどうかと思っているところがあったんですけど、S委員
が「とにかくその時点になってから女性への偏りを言っても遅い。日頃からの活動が必要だ
と思う」とおっしゃられたこと。もう一つは、センターが知られていないという話が出たの
ですが、私はセンターが必要とされていないからではないかと申し上げました。暴力にして
も、性別役割の偏りにしても、今の状態をなんとかしたいと思っている人が多ければ変わっ
ていくだろうし、センターの必要性も増して、もっと知られていて当然ではないかと。結局
は必要と感じている人が少ないのではないかと思うんですと申し上げたら、Yオブザーバー
が、「いや、そんなことはないです。女性が不利益を受けたときに、泣き寝入りをしなくて
済むように相談機能を持つところは絶対必要だと思っています」とおっしゃるので、「それ
は公務員としてですか」とお聞きしたら、「いや、違います。人としてです」とおっしゃい
ましたのでたいへん感動しました。たまたまお2人と一緒にグループになれたので、男性お
2人の発言をお聞きできて、とても良かったと思いましたが、Aグループの方に聞いてい
ただけませんでしたし、Aグループの方のお話を聞けませんでした。進行の方法について疑
問に思います。提言書を作っていくにあたって、全員の意見を聞いてまとめていくことが
大事だと思うので残念な感じがしています。分かれてやってもよいですが、やはり交流がな
いと共有できないのではないかと思います。ワークショップはあってもいいけれど、全体で
の交流というのは必要ではないかと思います。

(6) 男女共同参画推進フォーラムしえいくはんず 2015 での展示について

事務局：来週6月の27日と28日、男女共同参画推進フォーラムしえいくはんずを市民実行委員会と協働で開催いたします。皆さんにお配りしていますパンフレットの通り、講演会、落語などさまざまなイベントを予定しているんですけども、その中で、参加団体紹介パネル展というものをやっております。センター運営委員会で、こういった災害時のセンターの役割について話しておりますので、まだ途中ではありますけれども、こういったことを検討しているということを市民の皆様にもお伝えしたいと考え、委員長と相談しまして参加団体紹介パネル展にセンター運営委員会での検討内容を展示することにいたしました。展示内容はこれから詳細を検討してまいります。来ていた方々にも防災について考えていただくような展示をしたいと思っておりますので、皆さんもお時間がありましたら、ぜひ来ていただいて、説明して下さったら嬉しいです。盛り上げて下さったら大変嬉しいです。よろしくお願いいたします。パンフレットも配っていただける方、募集しておりますので、是非ぜひよろしくお願いいたします。

(7) 閉会

事務局：今回は9月の下旬を予定しております。日程は未定でございますので、決まり次第お知らせいたします。また、今回は、本日の検討内容をふまえ、提言書の構成を検討する段階に入っております。どうぞよろしくお願いいたします。

では、遅くなりましたが、これで終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。